天文學

第243號（第 21 卷）　（昭和16年）　9 月 號

卷頭　　宇宙を觀る，人生を觀る　　隨筆

山　本　一　清

"學者と學術の世界について"

先き頃，東京工業大學の竹內時男博士が發明された所謂"人工ラヂウム"の問題について，全國の新聞紙上を賑はしたことがあつた．なんでも，竹內博士等三人の學者の協同研究で，5年ばかり前，ラヂウムによつて，食鹽を放射能化する發明をされ，その技術について特許を申請されたところ，最近，首尾よく特許權が獲られた．ところが，理研其の他の方面の若干の學者たちが此の發明に異議を言ひ出され，遂に之れは，日本數學物理學會の例會に於いて，討議が催されることになり，非常に多數の來會者の面前に於いて，華々しい論戰が闘はされたと傳へられる．自分は日本數物の一會員であるけれど，其の討議の席上に居合はせたわけではないのだし，又，問題が純粹に物理學上のものであると言はれてゐるのだから，勿論，こゝで，あへて，論の內容に立ち入らうとは思はない．只，しかし，二三の新聞記事をよみ，又，特に，此の論戰と稱するものゝ速記を帝大新聞紙上で一讀して，感じた所は可なり多い．本誌の讀者諸氏も，あの事件については，新聞記事を見られたり，又は討議の會に列席せられた人もあるであらうと，尙，竹內博士の名は，過去數年間，本誌上を賑はしてゐる御なじみの名なので，特に注意をせられた人も多からうと思ふ．

自分は此の問題について，あちらこちらの友人たちと會つた時などに，屢々意見や批評を求められた．其の度ごとに，自分は次ぎのやうに一應答へてゐる．

"僕は竹內博士をよく知つてゐる．かなり永い以前から，竹內博士の人格を僕は尊敬してゐる一人であり，又，僕の專門と方面は可なり違つてゐる點もあるけれど，特に僕は努力し，勉强して，竹內博士の發表せられる研究論文を注意して讀んでゐる．最近，竹內博士は，偏光光線の應用方面から天文關係の研究にも從事せられ，日蝕や，黃道光の觀測にも熱心せられるやうになつたから，一層，親しみを增して來たやうに感じられる．竹內博士は，一見，處女の如き謙遜な學者であるが，事に當つて正義の觀念に溢

れ，又，膽力と勇氣に富み，更に友情に厚い人格者である．僕は此等について，何時でも多くの例を擧げることが出來る．博士は，又，學者として，多方面に視野を有つ人である．博士が年々發表される研究論文の表題を見ただけでも，これが一人の學者の業績かと驚かされる．僕は，數年前，或る帝大教授と雜談に耽つたことがある．彼は竹内博士と同じ物理學者であつたが，談たまたま竹内博士のことに及ぶと，彼は“あんなに澤山の論文を書いてはネ！！”と言つて，顰蹙してゐた．僕は其の時，此の教授の顏色を見て，不快を覺えざるを得なかつた．明らかに之れは嫉妬の聲である．およそ，學者が澤山の論文を發表して，惡く言はれるといふ道理はない．明らかに之れは日本の學者にあり勝ちな醜い感情の發露である．之れ以後，僕は度々竹内博士が同學者間の感情を刺激してゐられるらしいことを見聞し，博士に對して“誠に御氣の毒な”と，一種の義憤を感すると共に，我が國の學界の惡風のために嘆かはしいことと思つた．僕は，かの野口英世博士が未だ在世中，人の問ひに答へられたといふ談片を或る雜誌で讀んだことがある．野口博士は人も知る博學の秀才で，多くの貴重な業績を殘した偉人であるが，“御研究の方針と，其の心構へは？”と聞かれた返答に，“私は秀才でも何でもありません．只，毎日せつせと働くのです．之れが私のモツトーです．問題を撰ばず，目前にある題目を手當り次第に捕へます．それで，私の成功は言はゞまぐれ當りですヨ”と述懷されたと言ふ．無論，之れは博士の謙遜である．成功はまぐれ當りではないに決つてゐる．只，この野口博士の言葉の中に，味はうべきは，博士が，努力の人であると同時に，多方面の人であるといふ點である．學者に二つの型がある．只一つの問題を生涯死守する人と，多方面に視野を有つて，絶えず新分野の開拓を眼ざす人とである．野口博士や，竹内博士は此の後者に屬するタイプである．竹内博士も，若し，日本國内に踏み止まつてゐないで，ニウヨークか，パリあたりに居住してゐたら，野口博士と同樣な盛名を馳せた人であらうと思ふ．こういふタイプの學者を，日本の學界が包容し得ないならば，それは日本の損失であり，又，國の恥である．竹内博士の名は，又，その夥しい著書によつて，學俗兩方面にひろく知られてゐる．之れも博士が努力の人であることを物語るものであると共に，之れを博士の賣名だと見て，快く思はない同學者が少くない樣子である．實に卑劣なる學徒ともいふより外に言は無い．博士と一日交つて見れば，博士が賣名家か，愛國者かは判明するのだ．——こんどの人工ラヂウム問題に見ても，博士の態度は，吾々からは，實に齒がゆいほど謙虛である．しかるに，之れに對して，對立者の中には，傲慢で，無禮な態度が伺はれる．學者の爭ひは，須らく，もつと禮儀あり，冷靜であるべきだ．殊に，實驗物理學上の異論の如きは，若し其れが急を要しないものならば，默つて十ケ年間待つて居れば，天然現象それ自身が論の正否を判斷してくれるものだ．何を好んで，論戰を急ぐ必要があるのか?!——僕も昨年或る種の問題について賀川豐彦氏と對立してゐる（天界227號）．賀川氏は今も時々肉迫して來られるが，僕は論じるだけのことは論じたので，其れ以上は，天然が事實を以つて答へてくれると信じるから，賀川氏に對しては，失禮ではあるが，應辯しない．之れが天然理學者の立場の有難いところだと思つてゐる．實證學の論爭は，あせる者の側に弱點があると考へてよ

からう．自信のある者はあせらない．

“又，元の人工ラヂウム問題に歸るが，特許局をパスする所まで來て了つた此の問題に對しては，異議ある者は先づ特許局を攻擊すべき筋合ひではないか?!　敢へてそれをしないで，どこまでも之れを純物理學上の問題だと駄々をこね，人工ラヂウムを實驗に供した醫學者の發言までも許さないといふ性急な態度は，座長も，異議者も，甚だ不穩當であると僕は思ふ.”云々．

社會は可なり複雜怪奇である．ことに，東京といふ社會は，今は一種，惡ずれのした社會である．最近，東京に起る事件は，大低，其の眞相が裏の裏にある．東京以外（敢へて“地方”とは言はない）の人々は，よほど氣を付けなければならない．

▲少し書き過ぎて，筆が汚れたやうな氣がする．心も筆も洗ひ淸める意味に於いて，眞底からの天眞爛漫家であつた故水野千里氏のことを思ふ．一口に天文家と言つても種々ある中に，水野さんほどうぶな，明朗な，純眞な人を，自分は，國內にも，國外にも見ない．“星を樂しむ人は，心も高潔である”と，多年言ひ古しながら，なかなか高潔でない天文家が多いのだが，水野さんだけは，しかし，此の公式に100％あてはまる君子人であつた．此の人を失つたことは，本會のためばかりでなく，社會のため，日本のために，惜しみても餘りある感が深い．(1941—7—10)

東亞天文協會急告

天文寫眞　第1輯　　價，一枚に付き金1圓40錢（送料共），申込と同時に送金されたし．皆，非常に珍らしいもので，始めて發布されるもの，又は日本では殆んど手に入らぬものばかりです．すべて說明文つきです．

1. **土　星**　　リク天文臺にて觀察されたもの．今回の接近の記念として絕好品．
2. **ペルーの皆既日食**　　1937年六月8日，花山の觀測隊が撮影したもの．
3. **フィンスラ彗星**　　1937年七月，賑やかなペルセ星座を北進する景觀．
4. **盛裝のアインスタイン博士**　　相對原理の創設者の見事な肖像．
5. **小マゼラン雲**　　近年の宇宙研究上に有名な天體で，日本では見えない珍景．
6. **黑點された太陽**　　1940年八月18日，伊達觀測所で撮影されたもの．
7. **オリオン座の大星霧**　　冬の美しい空を代表するかと思はるゝ雄姿．
8. **ヘルクレス座の球狀大星團**　　初夏の天頂に現はれる小宇宙像．

同　上　第2輯　　價一部につき金1圓（送料共）

1. **E. C. スライファ博士の火星寫眞**（3枚一組）
   1939年の大接近期の產物である．
2. **W. H. ピケリング敎授**
   今年の火星接近の紀念として此の火星の主(ぬし)を紹介す．